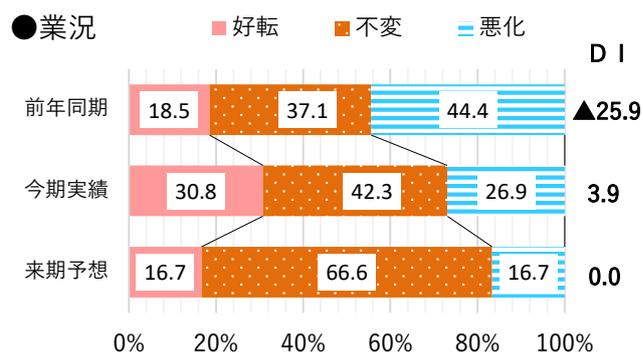


小 売 業

業況、売上、採算

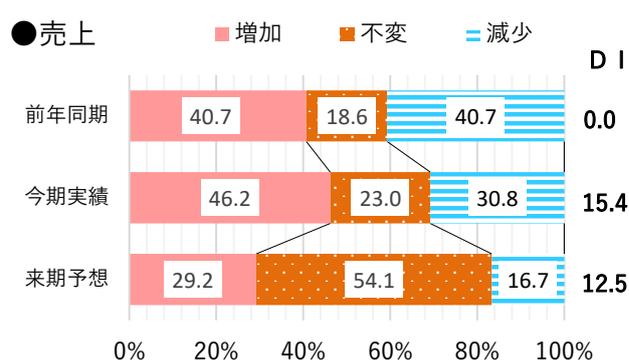
今期(2022.4~6)の業況判断DIは3.9で、前年同期(2021.4~6)と比べ29.8ポイント上昇しプラスに転じました。

来期(2022.7~9)は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



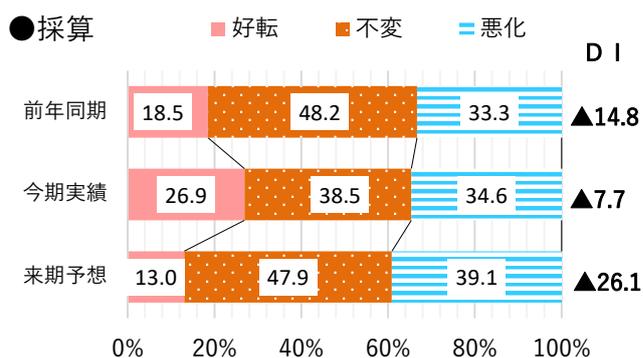
今期の売上高DIは15.4で、前年同期と比べ15.4ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上の増加傾向が続くと予想しています。

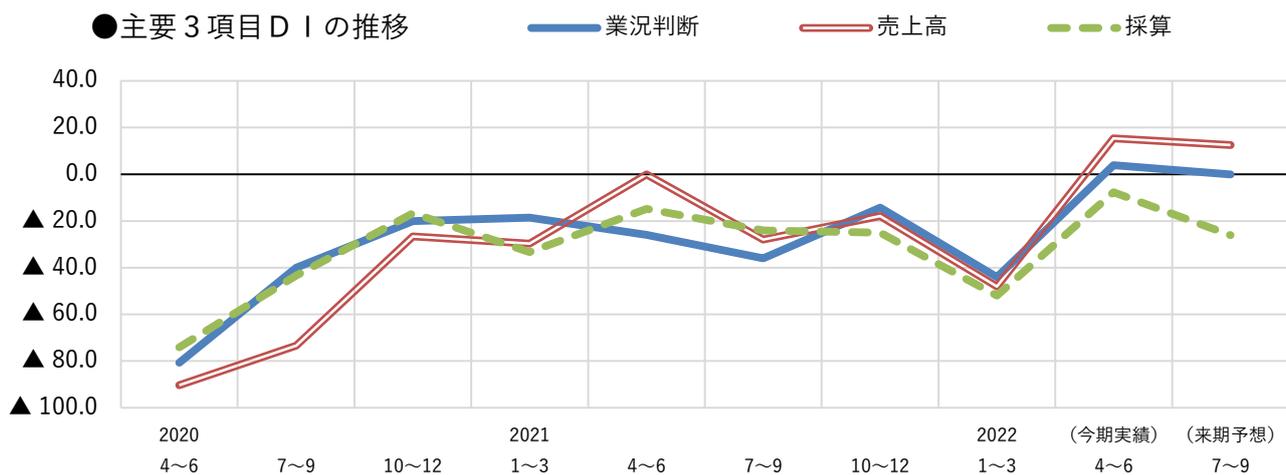


今期の採算DIは▲7.7で、前年同期と比べ7.1ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



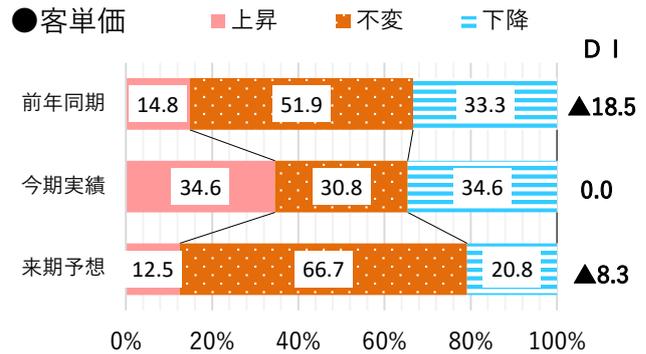
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

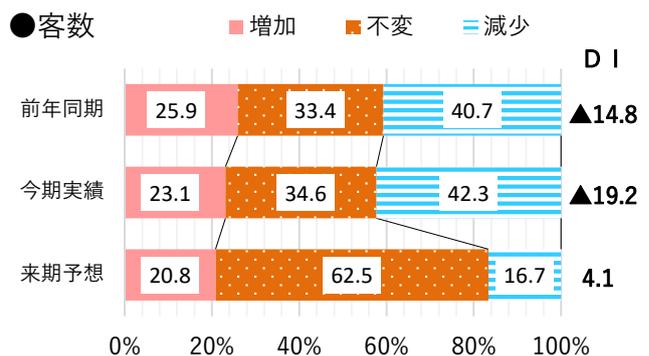
今期の客単価DIは▲0.0で、前年同期と比べ18.5ポイント上昇しました。

来期は、客単価がマイナスに転じると予想しています。



今期の客数DIは▲19.2で、前年同期と比べ4.4ポイント低下しました。

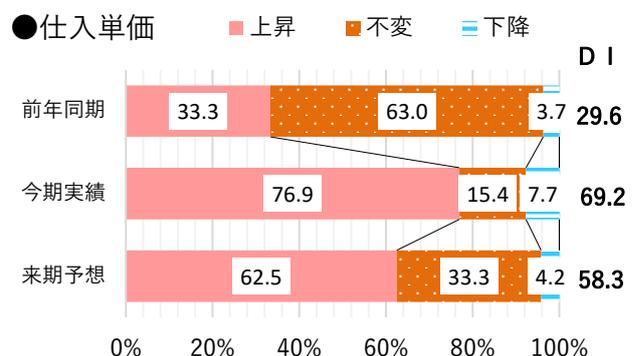
来期は、客数がプラスに転じると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

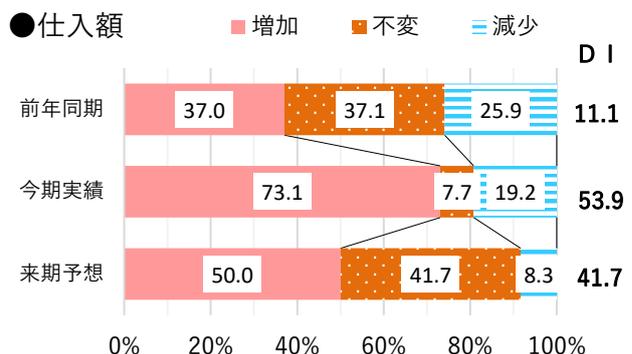
今期の仕入単価DIは69.2で、前年同期と比べ39.6ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



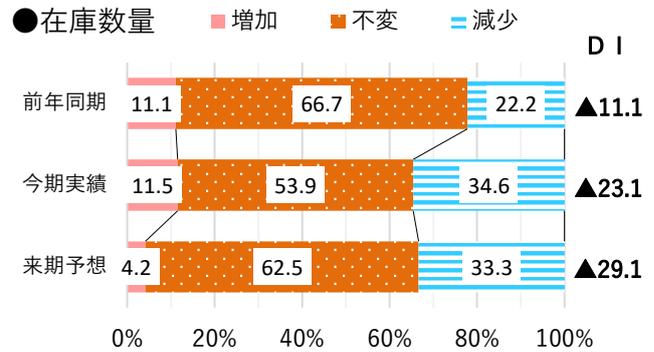
今期の仕入額DIは53.9で、前年同期と比べ42.8ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入額の増加傾向が続くと予想しています。



今期の在庫数量DIは▲23.1で、前年同期と比べ12.0ポイント低下しました。

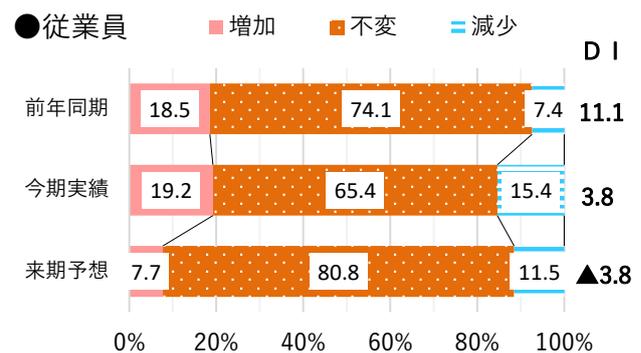
来期は、在庫数量の減少傾向が続くと予想しています。



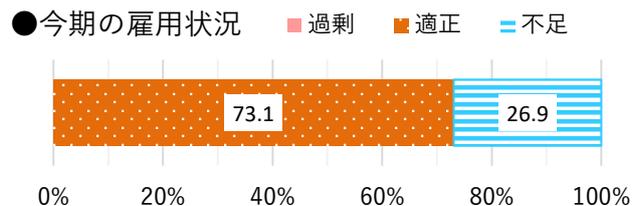
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは3.8で、前年同期と比べ7.3ポイント低下しました。

来期は、従業員数がマイナスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は73.1%、不足していると回答した企業の割合は26.9%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の50.0%を占めています。

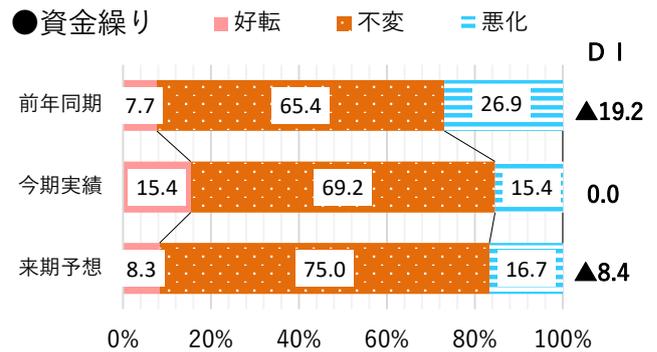
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	13
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	3
	不足	1

資金繰り、設備投資

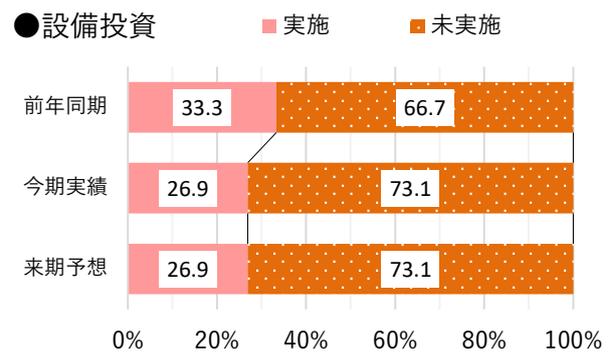
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ19.2ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りがマイナスに転じると予想しています。



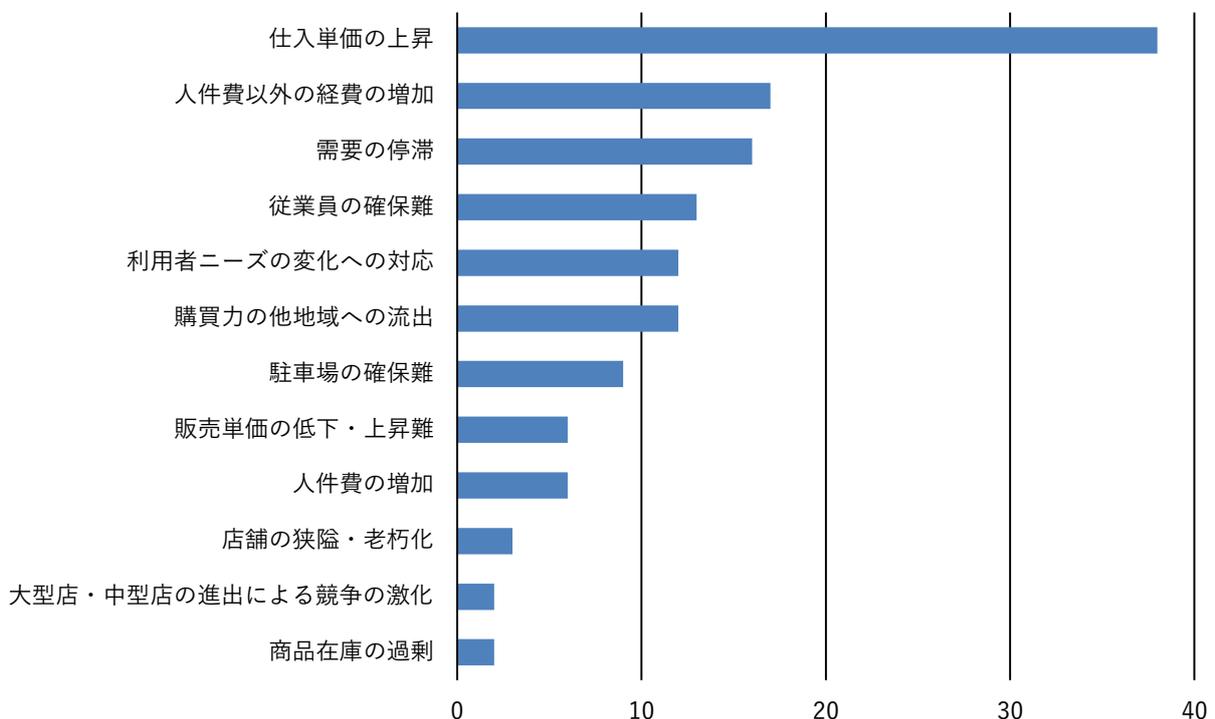
設備投資を実施した企業の割合は26.9%で、前年同期と比べ6.4%低下しました。投資内容は1位が「店舗」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は26.9%で、横ばいを予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「仕入単価の上昇」、2位が「人件費以外の経費の増加」、3位が「需要の停滞」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- コロナ禍の影響が弱まっており、観光関連産業や飲食店への納入量が回復傾向にある。観光客の来店や購買も増えている。(食料品小売)
- オンライン販売の売上が少しずつ伸びているため、さらに力を入れていきたい。(菓子製造小売)
- 原材料、包装資材、石油の値上げが利益を圧縮しており、厳しい状況にある。(菓子製造小売)
- 新型コロナウイルス感染者数の増加で、4月の対前年同月比の売上は大幅なマイナスだったが、5～6月はプラスだった。(衣服・身の回り品小売)
- 連休明けから売上が減少した。(衣服・身の回り品小売)
- 新車の納期遅れにより、受注があっても売上が立たない。欲しい時に希望の車が手に入らないため、顧客は中古車を探す傾向にある。新車は在庫が少なく高値になっている。(自動車小売)
- 在庫の確保が困難だが、仕入ルートを開拓し、車を調達したことで売上が増加した。(自動車小売)
- 前期にオーダー済みの車両が納車され、売上が上がった。(自動車小売)
- 新車販売額が対前年同期比で3割減った。(自動車小売)
- 仕入単価が上昇し、採算等が悪化した。(自動車小売)
- 原油価格が上昇したため、ガソリン等の価格も高騰している。(燃料小売)
- 売上が増加した。行動制限が解除され、まちに活気が戻ったことや、昨年のような猛暑に備えてのエアコン需要の伸長、原油価格の高騰を受け、石油燃料から電気をエネルギーとする製品へのシフトが進んでいることが好転の理由だと思う。(家電量販店)
- 自宅で過ごす人が多く、猛暑への備えとして昨年よりもエアコンの需要が増えている。(家電量販店)
- 商品単価が上昇したため、売上を確保できている。新型コロナウイルスの流行が落ち着きつつあり、外食や旅行に出かける層が増えたと思う。(大型店)
- コロナ禍が落ち着きつつあるため、外出や観光へのニーズが高まり、客数や売上が上昇した。(大型店)
- 5～6月にかけて、前年同期比の売上が若干のプラスだった。(大型店)
- 売上は前年同期比98%で、ゴールデンウィークの売上は伸び悩んだ。(コンビニ)
- 5～6月上旬の気温が低かったため、農作物への影響が懸念される。(コンビニ)
- 商品仕入単価の上昇が懸念される。(ドラッグストア)
- 売上は前年同期比で3%程減少した。(ホームセンター)

[来期の業況について]

- 新しい設備の導入を計画しており、売上の増加と効率向上を期待する。(食料品小売)
- 秋に小麦が値上げされるが、完全な価格転嫁は難しいので、悩ましい状況が続く。(菓子製造小売)
- 仕入額が上昇し続けており、価格転嫁を考えなければいけない。卸販売もしているので、価格交渉はスムーズに進んでほしい。(菓子製造小売)
- 新型コロナウイルスが落ち着き、売上の回復が期待できるが、仕入単価の上昇と物流コストの増加で利益は減少すると思われる。(衣服・身の回り品小売)
- 低価格品が販売の主流となると思われる。(衣服・身の回り品小売)
- 戦争の影響で仕入価格が上昇したが、販売価格への転嫁が難しい。(印鑑小売)
- 部品の供給不足が改善する見込みは薄く、数年は続くと思われる。(自動車小売)
- 新車の納期遅れが続くと思われる。(自動車小売)
- 石油燃料を使う製品から電力を使う製品へのシフトが進むと思う。売上は増加を見込む。(家電量販店)
- 商品在庫が僅少だったが、中国のロックダウン解除により在庫状況の改善が見込める。(家電量販店)
- 新型コロナウイルスの影響は徐々に薄れていくと思う。インバウンドの回復にも期待している。市内路線バスの減便の影響は大きく、客数の増加は難しいと思う。(大型店)
- 仕入価格の高騰が売上にどう影響するか不安に感じている。(大型店)
- 今期同様、外出や観光へのニーズが高水準で推移することで、好転すると思われる。(大型店)
- 政府は2025年までに最低賃金を1,000円まで引き上げる方針を示しているが、パート比率が高い業種にとって大きな負担となる。物価の上昇傾向もあり、不安を感じている。(コンビニ)